

11月・東京で日本初のデフリンピック

21種目 選手・役員56000人参加 道内からは7選手が世界に挑戦

2025東京デフリンピックが11月15日から26日まで行われます。耳が聞こえないの意味の英語デフ(Deaf)と、オリンピックを組み合わせたデフリンピックは、国際的な耳の聞こえない、聞こえにくい人のためのオリンピックです。

国際ろう者スポーツ委員会が主催し4年ごとに夏と冬の大会が開催されます。ギリシャ・アテネの第1回オリンピックから28年後の1924年、第1回デフリンピックがパリで開催されました。それから100周年の記念の大会です。

日本では初めての開催。約80か国から3000人の選手と3000人の役員、審判が参加します。競技数は陸上、水泳、バドミントン、バスケットボール、ゴルフ、ビーチバレーなど21種目です。

会場は東京体育館(開閉会式、卓球)や駒沢オリンピック公園総合運動場(陸上、ハンドボール、バレーボール)、武道館(柔道、空手)など都内の施設と福島県のJビレッジ(サッカー)、静岡県日本サイクルスポーツセンター(自転車)などです。

デフリンピックに参加できるのは、補聴器などを外した状態で聞こえる一番小さな音が55デシベルを超えていて(普通の会話の声は聞こえない)、各国のろう者スポーツ協会に登録された記録、出場条件を満たした人です。

北海道からは卓球の木村亜美さん、ビーチバレーの境出ゆきえさん、マラソンの北川朋恵さん、バスケットボールの手塚清貴さん、バドミントンの森本悠生、ボウリングの桜庭まどかさん、水泳の川真田結菜さんの7選手が世界に挑みます。

大会では国際手話が使われるほか、審判からの合図や指

示は声や音ではなく、旗などを使うことになります。視覚障がいや身体障がいとは同じ条件で競技ができないことから、パラリンピックなどとは別大会で開かれています。

日本初の開催とあって全日本ろうあ連盟は東京2025大会の認知度向上や、手話言語、ろう者の文化発信と理解促進、多様性と共生社会の推進を図ろうと、デフリンピックPRのラッピングをほどこしたキャラバンカーを2台用意。6月から北周りと南回りコースで大会開催まで全国キャラバン活動を実施しています。

道内は7月2日から18日まで各地を巡回。17日には札幌市の地下歩行空間で道内出場選手のうち4人が集合しトークイベントを開催。集まったサポーターらの前で、手話を交えて大会への抱負を語りました。

4歳から卓球を始めた木村亜美さんの目標は金メダル。共生社会をアピールしたいと力

強く話しました。境出ゆきえさんは中学生からバレーボールを始めて、社会人になってからビーチバレーに転向。やはり目指すは金メダルといいます。

マラソンの北川朋恵さんはもともとバレーボールをやっていた、体力づくりに月1回程度走っていたのが、大会に出てみないと誘われてランニングの魅力にはまったといいます。それからは北海道マラソンクラブに入りトレーニング。自己ベストの3時間33分を更新して入賞が目標です。

手塚清貴さんは17歳で初めてデフリンピックに出場し、今回の東京が4回目。お父さんもアルペンスキーでデフリンピックの冬季大会に出場経験があります。普段は江別市の一般バスケットチームの主力として活躍中。聴力障がいのこともたちの目標になるように頑張りたいと話していました。



道内キャラバンのトークショーで大会への意欲を語る出場選手。右から木村さん、境出さん、北川さん、手塚さん。

寄付のお願い

認定NPO法人ランナーズサポート北海道では、北海道のランニング文化の健全な発展やスポーツボランティアの拡充のために、企業・団体・個人からの寄付を募っています。2013年7月に認定NPO法人となったことで、税制上の優遇措置が受けられるようになりました。寄付をしていただいた個人は所得税と住民税、法人は法人税が減額され、納めた税金の一部が戻って来ます。いずれも当NPO法人の発行する領収書を所轄の税務署に提出して申告する必要があります。クレジットカードによる寄付もできます。

詳しくはランナーズサポート北海道ホームページ

<https://runsupport-h.org/>の「寄付のお願い」の項目をご覧ください。

★編集後記★

大相撲の幕内でただ一人の北海道出身者、一山本関が人気上昇中です。岩内町出身で大学卒業後は福島町で公務員になったものの、相撲への情熱を断ち切れずに退職して大相撲に入ったという異色の存在。突き押しとはたきだけから、四つもこなすように相撲の幅が広がってきました。活躍した名古屋場所のあとには北海道巡業があるので、地元であの笑顔がみられるのは楽しみです。福島町はこの夏、クマによる惨事で大変でした。巡業に合わせて、足を運んで福島町民を激励してもらえたら、と思っています。(K)

北のスポボラを支援していただいている団体・企業

一般財団法人 札幌市スポーツ協会 さっぽろグローバルスポーツコミッション
NPO法人 日本市民スポーツ海外交流協会 北海道マラソン組織委員会 北海道ロードレース事務局
創文企画「ランニングの世界」 西宮の沢バッティングパーク ピッチャーガエシ